



5 西叶神社

京都神護寺の文覚上人が源氏の再興を祈願して石清水八幡宮を勧請したもので、平家が滅亡し、その願いが叶ったことで「叶明神」の称号が与えられたと伝えられています。



社は、天保13年(1842)に建造されたもので、社殿を取り巻く総数230を超える彫刻は安房の彫刻師「後藤利兵衛」の作品です。拜殿の格天井(ごうてんじょう)の花鳥の彫刻には、当時の日本には渡来していないとされる花や鳥も彫られています。棟柱を担ぐ力士像も彫られているので、どこにあるか探してみてください。



11 東叶神社

浦賀の港を挟んで、東西の叶神社が向かい合っています。

社務所の裏には井戸があり、勝海舟が咸臨丸での太平洋横断前に、この井戸で水垢離(みずごり)をした後、明神山山頂で断食をしたと伝えられています。拜殿前のごま犬は、それぞれ子供を抱いていて、右側のごま犬



はお乳を飲ませています。ごま犬は口を開けた「阿(あ)形」と口を閉じた「叶(ん)形」で一对をなしていますが、東叶神社のごま犬は、左右とも口を閉じているように見えます。西叶神社のごま犬が、いずれも口を開けているように見えることから、東西で一对となっているとの説もあります。

12 東耀稲荷

天明2年(1782)の創建で食保命(うけもちのかみ)を祭っています。それほど大きくはありませんが、欄間(らんま)や格天井などには見事な彫刻が施されています。正面の大棟には、かつて立派な鳳凰の鏝絵(こてえ)がありましたが、修理の際に再現できる技術者がいなかったため、漆喰(しっくい)塗りになってしまいました。



左右隅棟の上には恵比寿と大黒天の飾り瓦が乗り、干鯛(ほしか)で栄えた東浦賀の粟米(あわ)がしのばれます。

シティガイドのおすすめ

浦賀の鏝絵(こてえ)

左官職人が、土蔵などの壁の仕上げに鏝(こて)と漆喰(しっくい)で作ったレリーフを鏝絵と呼び、江戸時代の後期から数多く作られ、浦賀にも数点が残されています。

干鯛問屋と回船問屋で栄えた浦賀には、土蔵造りが盛んであったことから漆喰壁を塗る左官職人も多く、中でも川間(西浦賀)に住む石川善吉は「三浦の善吉」として「伊豆の長八(入江長八)」とともに、全国的に知られる漆喰細工の名人でした。

西叶神社

石川善吉の昭和8年の作品です。左側に水瓶を割る子、右側には割れた水瓶より流れる水の中から童子が鯉をのぞかせ、助けられた一瞬の出来事を漆喰で表現しています。ふっくらした丸い顔、いきいきとした漆喰細工は、名人三浦の善吉の装飾壁の傑作です。



川間町内会館

石川梅尾の昭和34年の作品です。2階軒下に鳳凰、1階軒下に松竹梅と鶴亀が描かれ美しい色彩が施されています。梅尾52才の傑作。



東福寺

岩田辰之助による昭和7年の傑作です。本堂の外壁に「龍・竜・虎・飛天」など、彫刻と見まごう出来栄の鏝絵が8点あります。



浦賀のお土産 黒船まんじゅう

西叶神社近くにある精栄軒の「黒船まんじゅう」。ペリー率いる黒船が江戸に向う前に琉球に來航したことになみ、沖縄産の黒糖をソフトまんじゅうに使用した逸品です。和洋菓子 精栄軒(裏面マップ) ☎046-841-0123 🕒9:00~17:00 📍1個100円+税



横須賀の観光、遊び情報は「ここココ」で!

横須賀観光情報 **ここはココスカ** ココココで遊ぶぞ!

横須賀の観光スポット、イベント情報を紹介するホームページです。今が旬のイベント情報や、横須賀でしか味わえないグルメ情報などミミより情報が満載! 横須賀行くなり「ここココ」をチェック!

<http://www.cocoyoko.net/>

お問い合わせ 横須賀市コールセンター ☎046-822-2500(年中無休8:00~20:00)

横須賀集客促進実行委員会(横須賀市 横須賀商工会議所 京急電鉄) 事務局 横須賀市経済部観光企画課 ☎046-822-8124 平成28年4月発行

シティガイドが足で調べた

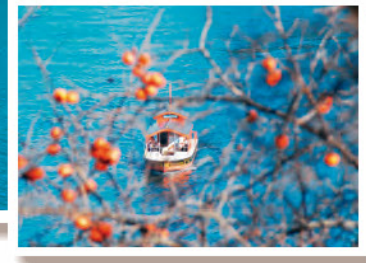
三浦半島 浦賀駅 散歩

きまに マップ付

浦賀駅



愛宕山公園から東浦賀を望む



浦賀の渡船



浦賀駅

開国の港 浦賀を歩く

ペリー來航の地として知られる浦賀の歴史を訪ねて、開国の港町「浦賀」を巡る約1時間30分(約5km)のコースです。

東西の町を結ぶ渡船の旅、干鯛問屋・回船問屋により栄えたころの面影を残す鏝絵(こてえ)、幕末のころと変わらぬ心地よい潮風を感じながら散策をお楽しみください。

西浦賀から、少し足を延ばして行く燈明堂もお薦めです。



ペリー來航の街「浦賀」



時は幕末、ペリーが率いる4隻の黒船が浦賀に來航し、泰平の眠りから目を覚ました日本は、開国から近代化への道を歩み始めます。

浦賀の街には、歴史の表舞台を飾った人々の足跡が、今でも数多く残されています。黒船に最初に乗り込み折衝を行った、浦賀奉行所与力・中島三郎助の書による「大衆本家」、浦賀奉行所の跡地、吉田松陰と佐久間象山がペリー來航時の対応策を協議した徳田屋跡一。勝海舟により初めて太平洋を横断した咸臨丸もこの浦賀の港で修理されています。

坂本龍馬をはじめ幕末の志士たちも、港を囲む浦賀の山のどこからか、黒船を目にしていたとも言われています。

3 浦賀ドック

浦賀駅の階段を下ると、巨大な建物が海側の道沿いに残っています。一世紀以上にわたって約1000隻にのぼる艦船を造り続けてきた浦賀ドックの跡地です。



平成15年に閉鎖されるまで、30mを超える高さのクレーンが空を覆い、日本丸、海王丸をはじめ、青函連絡船・大型タンカー・自動車運搬船・護衛艦などの船がこの浦賀ドックで建造され、街はドックで働く人たちにぎわいました。浦賀の造船の歴史は古く、安政元年(1854)には、浦賀駅前を流れる「長川」(現在は暗渠)の河口で、中島三郎助らにより日本最初の洋式軍艦である鳳凰丸が建造されました。太平洋横断直前の咸臨丸も、この河口で修理が行われました。



現在では、昭和18年(1943)に作られ、1機のみ解体されずに残っているクレーン、明治32年(1899)に建造されたドラインドックなど(いずれも浦賀生協付近からフランス積みものれんがが搬越しに見ることができます)に、当時の面影をしのぶことができます。

4 浦賀コミュニティセンター分館



浦賀奉行所関係の模型、中島三郎助関係の資料、鳳凰丸・咸臨丸・ペリー艦隊の旗艦サスケハナの模型などが展示されています。
☎046-842-4121
🕒9:00~21:00(展示室は17:00まで)
📍年末年始(随時休館あり)
📎無料

開国の港 浦賀を歩こう

浦賀駅→渡し舟→浦賀駅 (約5km/約1時間30分)

- ① 浦賀駅**
0.3km ▼ (8分)
- ② 大衆帯本塚**
0.4km ▼ (8分)
- ③ 浦賀ドックの見えるポイント**
0.1km ▼ (2分)
- ④ 浦賀コミュニティセンター分館**
0.4km ▼ (8分)
- ⑤ 西葉神社**
0.7km ▼ (10分)
- ⑥ 為朝神社**
0.2km ▼ (3分)

右下に続く

戦前は軍艦、戦後は青函連絡船などが建造されましたが、現在では役目を終えています

石川善吉による彫刻と見間違えの竜のこて絵があります

徳田屋跡
吉田松陰や桂小五郎や浮世絵師の安藤広重らが泊まった旅館の跡地

咸臨丸の勝海舟が断食した場所と伝えられています

眺めのよいあずま屋で、ひと休み

れんが積みドックが見えます

一足延ばして久里浜へバスでぬけてヘリー公園もどうぞ

源為朝の像がある神社。この地に伝えられている「虎踊り」は奉行所が伊豆下田から移されたとき、ともに伝承されました

浦賀園ともよばれ横須賀で一番古い公園。咸臨丸出航の碑もあります

渡し船に乗って東西の葉神社にお参りすると恋が叶うかも...

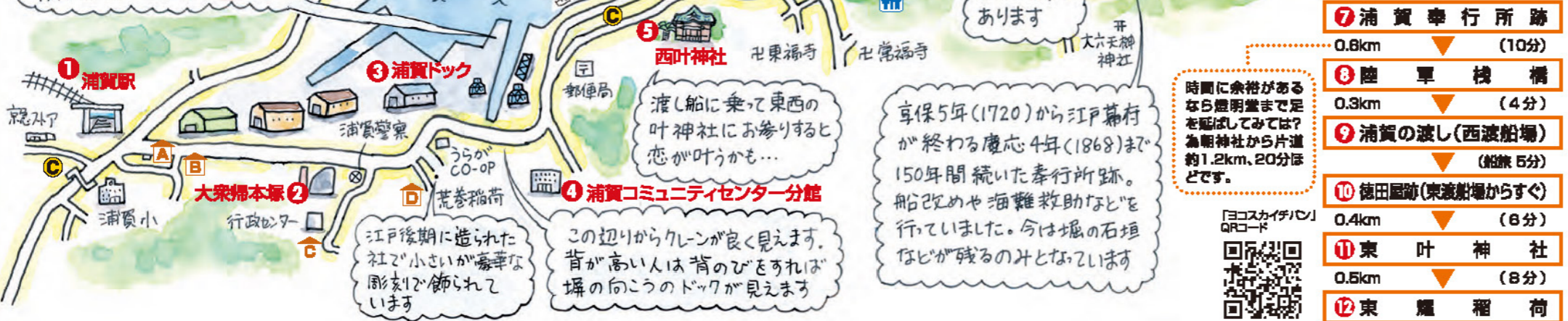
享保5年(1720)から江戸幕府が終わる慶応4年(1868)まで150年間続いた奉行所跡。船改めや海難救助などを行っていました。今は堀の石垣などが残るのみとなっています

江戸後期に造られた社で小さいが豪華な彫刻が飾られています

この辺りからクレーンが良く見えます。背が高い人は背のびをすれば堀の向こうのドックが見えます

凡 例

- トイレ
- コンビニエンスストア



- ⑦ 浦賀奉行所跡**
0.8km ▼ (10分)
- ⑧ 陸軍棧橋**
0.3km ▼ (4分)
- ⑨ 浦賀の渡し(西渡船場)**
(船旅 5分)
- ⑩ 徳田屋跡(東渡船場からすぐ)**
0.4km ▼ (8分)
- ⑪ 東葉神社**
0.5km ▼ (8分)
- ⑫ 東廻稲荷**
1.0km ▼ (17分)
- 浦賀駅**

時間に余裕があるなら燈明堂まで足を延ばしてみても? 為朝神社から片道約1.2km、20分ほどです。



「ヨコスカイパン」QRコード
マップ中の飲食店情報は、横須賀市内の店舗サイト「ヨコスカイパン」掲載店から、抽出しています。
「ヨコスカイパン」
http://www.sukaichi.com/
「ヨコスカイパン」についてのお問い合わせは、
横須賀工芸館 ☎ 046-823-0421

このリーフレットは39,880部発行し、1部当たりの印刷原費は2,877円です。大豆を原料としたインク(SOY INK)を使用しています。

- A 日本茶専門店 茶井** ☎ 046-841-0713 ①日 10:00~18:00 気軽に本格的な抹茶や玉露を楽しめます。
- B 岩城屋** ☎ 046-841-1058 ①月 11:00~14:00(日曜日 11:30~14:30) 17:00~21:00 和食処。浦賀駅より徒歩1分。
- C 浜田分店** ☎ 046-841-0048 ①年中無休 7:30~16:00(土・日・祝7:00~) 大正3年創業の老舗パン屋。

- D うなぎ 柳本** ☎ 046-841-0132 ①月 11:30~14:00 16:00~21:00 明治創業。鰻御膳も食べた。
- E ワインセラーみやま 宮前店** ☎ 046-841-0013 ①月 8:30~20:00(日曜は19:00まで) 地下水を利用したワインセラーにて管理。燈明堂ワインを販売。Cafe & Wine MIYAMASA ☎ 046-841-0013 ①月 11:00~16:00 18:00~21:00(日曜は8:00~17:00) パティシエが作るケーキとワインが楽しめるお店。

このコースは、よこすかシティガイド協会が推奨したコースです。このほかにも魅力あふれるコースのガイドが可能です。お気軽に下記までご連絡ください。
「NPO法人 よこすかシティガイド協会」
☎ 046-822-8256
☎ 046-827-1882



西浦賀の渡船場から川間方面に少し歩くと、通称陸軍棧橋と呼ばれるL字型の棧橋があります。太平洋戦争終了後、南方や中国大陸からの引き揚げ者約56万人が、懐かしい日本の地に第一歩を踏んだ所です。浦賀港の引き揚げの歴史を後世に伝えようと平成18年10月に記念碑が設置されました。



ポンポン船の愛称で親しまれている渡船は、浦賀に奉行所が置かれて間もない享保10年(1725)ごろから記録に登場します。海で隔てられた、東西浦賀の人々が行き来するための生活路として、約300年にわたる長い歴史を持っています。

現在の船(慶丸)は、平成10年(1998)に就航しました。それまでの木造船から、江戸時代の「御座船」をイメージした船になっています。渡船が対岸にいるときは、呼び出しボタンを押すと、すぐに来てくれます。約3分ほどの船旅ですが、浦賀造船所跡地を海から眺めることができます。

この渡船の航路は「浦賀海道」と名付けられ、全国でも珍しい水上の市道(2073号線)になっています。
① 7:00~18:00 (12:00~13:00は、お昼休み)
② 大人200円、小中学生100円、その他(自転車等)50円 ※雨天時や船の点検等で運休することがあります。 ※平成28年3月1日の価格になります。



燈明堂は浦賀港の西にあり、港に出入りする船にとって灯台の役目をしていました。慶安元年(1648)幕府の命により造られ、菜種油でともされた光は海上4海里(7.4km)を照らしたといわれています。元禄のころから、最盛期を迎えた東浦賀の干鰯問屋の負担で維持管理を行い、明治5年(1872)に廃止されるまでの約220年間、一日も休まずに航路の安全を守ってきました。



建物は明治20年代まで残っていたといわれていますが、風雨で崩壊し石垣だけが残されていました。昭和63年(1988)に、残った石垣の上に現在の建物が、当時のままに復元されました。燈明堂からは、小さな砂浜が続き、沖合いには今も多くの船が行き交います。